

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1272300185		
法人名	有限会社 長寿松		
事業所名	グループホーム あんしん勝浦		
所在地	千葉県勝浦市松部1077-2		
自己評価作成日	平成22年4月18日	評価結果市町村受理日	平成22年9月30日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>最高の環境の良さを活かし、季節の移り変わりを広い花壇に野菜・花を育て、日々の成長・収穫し、共に喜びを分け合い、野菜が利用者の手で料理に関わり、テーブルに並び、歓声と拍手、一人ひとりにそっと寄り添い家族の一員であり、背中からそっとサポートできるスタッフと日々の散歩でも、ご近所から愛される施設です。 地域住民の一員として生きていけるように支援します。 安らぎと安心感の持てる生活への支援します。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>グループホームあんしん勝浦は、海沿いの高台に建っており、見晴らしの良い環境となっている。敷地は広く、バルコニーでお茶を飲みながら海を眺めることができ、開放的な施設となっている。入居者の管理する野菜畑では季節ごとに収穫の楽しみがあり、入居者の生活の張り合いとなっている。保養施設をグループホームとして活用しており、施設内はゆったりとした造りとなっており、十分な介助スペースが確保されている。勝浦市の認知症相談窓口となっていることもあり、市との協働体制が構築されていると共に、地域との連携も図られている。また、災害時の避難場所として指定されており、非常・災害時には関係機関・地域住民等と協力関係を築けるよう取り組んでいる。</p>
--

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigo.chibakenshakyu.com/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 日本ビジネスシステム		
所在地	千葉県市川市富浜3-8-8		
訪問調査日	平成22年4月19日		

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Alt+)- + (Enter+)-です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	<p>理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている</p>	<p>職員全員が理念を意識した事業の取り組みがなされている。</p>	<p>「安心・安全かつ生き生きとした生活を送ることができる様、質の高い介護サービスの提供」を主眼とした施設独自の理念を作り上げている。理念を明文化し、施設内に掲示すると共に朝の業務開始時に全職員で理念を唱和しており、理念の確認、周知を図っている。</p>	<p>現在の理念を管理者・職員が入れ替わり、新体制で臨むに当り、地域や入居者のニーズ、施設の状況の変化に即した理念に作り変え・明文化し、ケアに反映されることを期待します。また、全職員にて理念を作成する事により、職員同士のコミュニケーションが図られ、勤労意欲に繋がる事を望みます。</p>
2	(2)	<p>事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している</p>	<p>散歩の時に近隣住民とは挨拶を交わす関係を築いている。ご好意で差し入れを受け等している。施設で自治会に加入しており、地域のゴミ拾い、行事準備の手伝い等に職員が参加し、交流を図っている。地域と合同の火災訓練実施。参加者を一人でも多くしたい。</p>	<p>外出時に近隣住民の方と挨拶が交わされ、おすそ分けをいただく等、顔馴染みの関係が築かれている。また、自治会の手伝い・勝浦市のお祭り等の地域行事への参加、ボランティアの受け入れを通じて地域との交流を図っている。認知症相談窓口の設置や講演会の講師派遣等、地域貢献にも取り組んでいる。</p>	
3		<p>事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている</p>	<p>現在実施していない。</p>	/	
4	(3)	<p>運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>年1回、運営推進会議は開催されている。必要性、重要性を理解している。ホームの方針・市・区の協力方針に従って計画中</p>	<p>入居者家族・民生員・市職員・施設職員等を構成員として年1回、運営推進会議を開催されている。会議では、施設活動の報告を行い施設の理解の促進に努めると共に、意見・情報交換を行い、サービスの質の向上に繋げている。</p>	<p>今後、施設理解の促進と今以上の地域との関係強化を図る為にも、運営推進会議の開催回数を増やし、運営推進会議の充実化に向けた取り組みを期待します。</p>

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	入居者や業務の相談で市と連携を図っている。市の依頼を受け、認知症の相談窓口となっており、状況に応じて緊急時の受け入れ対応も行っている。	定期的に市と業務に関する相談や報告等を行っており、連携を図っている。認知症相談窓口の設置を通じて、市と意見・情報交換を行い、市と協働でサービスの質の向上に取り組む関係が築かれている。	市の依頼により認知症相談窓口となっているが、現在はグループホームの看板・道しるべがない状態となっている。来訪者や近隣住民に対して、グループホームのより以上の理解促進に繋げるために看板等の設置を期待します。
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	一部行っている	身体拘束排除における施設の指針や方針を掲げており、身体拘束排除に取り組んでいる。日中は玄関の鍵は施錠せず、入居者の自由な生活を支援している。入居者が外に出た場合には声掛け、見守りにて理念に基づいた対応が図られている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	行っている		
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	事例を活かし(入居者様の中で色々な事情から親族 司法書士に成年後見人がチェンジされた方がいる)、各職員が周知出来るよう話し合い、指導しています。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に意見・要望等の確認を行っている。意見箱及び苦情・相談窓口を設置している。挙げた要望に関してはミーティングで検討した上で業務内容を見直し、対応している。また、家族に対する説明及び報告している。	苦情相談窓口や意見箱を設置していると共に、電話や面会時に意見・要望を収集している。挙げた意見・要望は、会議を通じて周知・検討を行い、迅速な対応に努めている。また、意見・要望を即時改善する事により、サービスの質の向上に繋げている。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	行っている。	日々、業務の申し送り等で職員から意見や提案を確認する場を設けている。管理者は意見のでない職員にできるだけ声かけを行ない、個別に話す機会を設けていると共に、個別面談を行い、思いや意見等を把握している。管理者は職員とのコミュニケーションを図り、働きやすい職場環境の整備に努めている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	常にスタッフの事を考え、行っている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員全員の昨年度の反省・今年度の目標を事業所内に掲示し、職員の資質向上を目指している。外部研修に関しては研修参加後に報告会を行い、情報の共有を図っている。業務マニュアルや研修資料を活用した上で、サービスに関する知識・技術の向上に努めている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のグループホーム連絡会に参加しており、研修会や情報・意見交換等を行っている。業務における相談等を通して、他の事業所の優れた点を取り入れながらサービスの向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>努めている。</p>		
16		<p>初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>見学を実施している。体験入居や面談を通じて施設の雰囲気慣れてもらっている。入居者の意向や希望の把握に努めている。入居後は、専属の担当者を付け、施設に馴染むまで根気良く対応し理解を得るよう声掛け等をしている。</p>		
17		<p>初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>努めている。</p>		
18		<p>本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>調理、食事準備、洗濯干し等の生活活動を共同で行っている。職員は入居者に家事の知識、知恵を教わりながら支えあう関係を築いている。</p>		
19		<p>本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>徐々に築いている。</p>		
20	(8)	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>入居前の見学、面接を通じて入居者の意向や生活歴等の把握に努めている。入居後の生活においては、本人のリクエストになるべく添うようスタッフ一同支援する。全員に細かな支援を行う。</p>	<p>契約時に入居者・家族から生活歴等を確認し、馴染みの関係・地域・習慣を把握しており、要望に添った柔軟な支援が行われている。馴染みの人との交流の継続に努めていると共に、行きつけの美容院の利用・墓参り等、馴染みの場所への外出も行ってあり、関係が継続できるように支援をしている。家族・親戚との外出・外泊は自由となっており、家族との関係継続に配慮している。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	努めている。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	考え方はそのように考えていますが、実際は連絡を取り合うなどは行っていません。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前の見学、面接を通じて入居者の意向や生活歴等の把握に努めている。入居後の生活においては、日々の気付きや職員間の情報交換を通して本人の意向に沿った支援を行っている。	契約時に本人・家族から生活歴や意向等を聴取し、記録している。医師からの意見書や、他の事業所からの情報提供により情報を把握している。また、日々の生活状況やコミュニケーションにて意向の把握に努めている。申し送りノートや会議を通じて、全職員で周知・検討し、入居者の意向に添った支援が行われるように取り組んでいる。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	努めている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員からの意見、入居前の見学・面接での情報を活用し、管理者、計画作成担当者がケアプランを作成している。今後、アセスメントにおいては、センター方式の導入を検討しており、情報の整理や職員への周知に努めている。	入居者・家族の希望や職員の意見をもとに、管理者、計画作成担当者が介護計画を作成している。定期的に評価や目標の達成状況の確認を行うと共に、3ヶ月に1回介護計画の見直しを行っている。また、会議にて入居者の生活・身体状況を全職員で話し合い、本人の意向・現状に即した介護方法を検討している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	2ヶ月に1回、介護計画に評価を記入し、目標の達成を確認している。また、生活状況に変化があった場合やミーティングで見直しが必要と判断された場合は、ケアプランの見直しを図っている。見直しの際は、職員全員の意見や情報をまとめ、管理者、計画作成担当者が作成している。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者が入院した際、お見舞いや着替えの準備を施設職員が行っている。通院における支援も希望があれば職員が対応している。行きつけの美容院や数時間程度の一時帰宅等、入居者の希望に応えた外出支援を行っている。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現在、ほとんど利用していない。文化会館のようなところに出掛けることはある。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院やかかりつけ医の受診を定期的に行っており、希望があれば職員が通院を支援している。また、管理者が看護師であり、入居者の日々の健康管理を適切に行っている。看護師の意見を聞き、日々の健康を保つ。	希望するかかりつけ医への受診が可能になっており、希望に応じて職員が付き添いを支援している。協力病院を設置しており、医療に関する相談・家族への説明・緊急時の対応等、協力体制が構築されている。また、週1回、訪問看護職員による指導が行われており、適切な健康管理が行われている。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	本ホームの看護師が行っている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	施設では、終末期の看取りは行っておらず、重度化した場合は、協力病院と連携を取り、相談の上、適切な対応を図っている。	家族から緊急時・終末期における意向や対応方法等を確認し、同意書を交わしている。必要に応じて、終末期・重度化に向けての対応方法の検討や意向の確認を行うと共に、主治医・看護師・職員等と連携を図り、施設として出来る限りの支援が行えるよう協力体制を整えている。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に行えるようにしていく。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	近隣の地図を廊下に掲示し、避難場所の確認を行っていると共に、ミーティングで避難経路、緊急時、災害時の対応手順を確認している。地域住民へ災害時の協力を呼びかけている。年3回の訓練実施。区民・消防の協力を仰ぐ。	火災報知器・消火器・防火扉を設置していると共に、避難経路・災害時の対応手順等が整備されている。年3回、消防避難訓練を実施し、災害時に備えている。訓練では様々なケースを想定した訓練を実施しており、職員・入居者が災害時の対応方法を身に付けている。また、同敷地内は災害時の地域非難場所に指定されており、施設として地域住民との連携体制構築に向けて取り組んでいる。	非常災害時には近隣住民の避難場所となることから、施設用と避難場所としての緊急災害時マニュアルの整備を期待します。また、運営推進会議や消防避難訓練を通じて地域住民との協力体制を構築する事を期待します。
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報、事務所に保管しており、個人情報の保護を図っている。入居者に対しては、尊厳を尊重した接遇マナーを徹底しており、「介護する」ではなく「共に生活する」という理念を意識しながらサービスを提供している。	プライバシー保護のマニュアルが整備されており、職員は声掛け・誘導方法・言葉遣い等に気を配っている。希望に応じて鍵を設置する事も可能になっており、プライバシーが確保されていると共に、居室のドアには小窓を設け、職員はさりげない見守りを心掛けており、理念に添ったそのサービスの実践に取り組んでいる。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の日課を定めているが、その日の希望や個々のペースに合わせた生活を送っている。また、希望を言い出しにくい入居者に対しては、会話の中から聞きだし対応している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	行っている。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備・片付け、調理、買い物は入居者と共同で行っている。入居者が楽しんで料理に参加している。季節・配色を考えたメニュー。外食会を企画・実施する等支援している。	入居者の希望や能力に応じて、食事の準備・後片付け等共同で行っている。献立については、季節や入居者の希望を取り入れながら職員が献立を作成している。外食会や特別食の企画・実施をすると共に、入居者が施設敷地内で作った野菜を活用する等、食に対する楽しみを支援している。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分及び食事の摂取量を記録しており、摂取量の不足に関しては、栄養補助食品等を提供している。食事の提供時間をずらし、柔軟な対応を行い、必要な栄養を確保している。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一部できていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	している。	排泄チェックリストを活用し、入居者の排泄パターンを把握に努めると共に、声掛け・誘導・支援方法等の工夫により、排泄の自立を支援している。夜間は睡眠記録にて睡眠状況を把握し、夜間誘導・見守り等臨機応変に対応しており、一人ひとりに即した排泄支援を行っている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	行っている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴が生活の一部。拒否もなく順番がある程度あるがその日の体調に合わせる。毎日が望ましいが、話し合いの結果待ち	入浴は毎日実施し、希望に応じて回数・時間等柔軟に支援している。また、状況や体調に応じて、部分浴・清拭を実施しており、入居者の清潔保持に努めている。入浴拒否に対しては無理強いせず、日にちや時間の変更等に対応している。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	行っている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	努力中		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事等の生活活動を能力に応じて共同で行っている。裁縫や将棋等、個々の趣味に合わせたレクリエーションを支援している。季節に合わせた行事や外出会を行い、四季を感じながら生き生きとした生活が送れるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	<p>日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	<p>天気の良い日は散歩を支援したり、希望に応じて買い物や一時帰宅を実施している。初詣、お祭り、イベント等への定期的な外出会及び外食会を企画・実施している。初詣・外食会・市のイベント参加。全員参加を希望している。</p>	<p>天候や希望に応じて、散歩を実施している。年間行事計画を立て、お祭り・ドライブ・花見等、戸外に出掛ける機会を設けている。また、一人ひとりの希望に応じて、馴染みの美容院や買い物等の外出を支援している。家族との外泊・外出も自由となっており、家族間での楽しみも支援している。</p>	
50		<p>お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>している。</p>		
51		<p>電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>行っている。</p>		
52	(19)	<p>居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>リビングから海が見え、ソファーやコタツが配置されている。ウッドデッキが設置されており、天気の良い日は、日向ぼっこをしたり、お茶を飲んだりしている。浴室の脱衣所が広く、介助するに当たり窮屈にならないよう十分なスペースが確保されている。</p>	<p>リビングは和室で、ソファー・コタツ・テレビが設置しており入居者がくつろげるよう配慮している。ベランダにはウッドデッキが設置され、お茶飲み等しながら海を見ることができ、見晴らしの良い環境となっている。トイレには男性用小便器が設置してあり、生活暦に配慮した空間となっている。施設の敷地で入居者が共同で農作物を作っており、収穫・食が楽しめるよう支援している。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	連動するキッチンカウンターの利用が可能。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具等の持込に付いては制限はしていない。全居室にエアコンが設置され、操作は職員が行い適切な空調管理がなされている。	入居者の希望に応じて馴染みの家具等を持ち込む事が可能になっており、居心地良く生活できるよう配慮されている。また、布団を敷くことも可能で、生活暦に合わせた居室作りがなされている。全居室にエアコンが設置されており、職員により適切な空調管理がなされている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	している。		